

4歳児7月「トンボ作戦」

トンボ、つかまえるぞ

ここにとまれ!

近頃トンボを捕まえるのに夢中の4歳児のA児。今朝も登園するとすぐ、トンボを捕まえたいと、材料になりそうな身近材を集め、製作を始めた(左上画像)。しばらくして園庭に出ると、梅雨の空いっぱい飛び交うトンボが、A児たちの目にすぐ飛び込んできた。「あ」と思わず出そうになった声を咄嗟にこらえたA児は、すぐさま空に向かって指を一本、すつつと立てる。でもそう簡単にトンボはとまってくれない。そこへB児が、道具コーナーに常備してある工事バーを持って登場すると、A児たちのトンボ捕獲大作戦が始まった(左・下画像)。

遊びの充実 虫遊びの展開に学ぶ

個性は大切にしよう

4歳児のここに注目!
— 内なる種の育ち —

4歳児は友達と遊びたいという思いがぐんと育つ時期です。もやめてみたいという気持ちも一段と育ち、遊びのイメージがどんどん広がっていき時期でもありません。イメージが豊かであるほど遊びの展開も速く、周囲の子がついていけなかつたり、理解し合えずにすれ違ってしまうことがあります。自分よく起きます。また、自分のやりたいことが一番面白いと、それだけが思い込んでいる節もあります。様々なズレからいざこざが急に増える時期でもありません。大切なことは、これらをこの時期の大切な発達課題と捉え、好きな遊びを通してその子の育ちを支えることです。一人一人のやりのたいが実現し、それぞれのイメージの面白さに触れ合い、イメージを共有する心地よさを日々味わっていくことにより、子供たちはぐんぐん育ちます。遊びは個性を認めることで「互いに個性を認

ホームページでは写真を公開しておりません。ご了承ください。

め合いながら、自分の世界を広げていく。大切な期となるのです。A児はもとから虫が大好きな子。B児は自分の興味に一人です。C児は戦いごっこが好き。A児は作るのが大好きな子。今好きたり、新しい好きを見つけた好奇心の種や、内秘わり続けようとする探究心の種を、やりたい遊びの中で温め、育み合います。そしてその種は、突如、ひょこつとその子の可能性として、地上に芽を出すのです。

ちよこつとメモ



前号で「子供の目に映えるものは基本的に自由という構えが重要」と述べたように、つまみ、例えば道具や材料が開放されてあるかどうかは、非常に大切かどうかは、非常に大切と自由です。道具や材料が自由に、多様性を利用してできるものに、なっているか、環境が子供にとつて「資源化」されているかどうかは、園全体としての教育の質に大きく影響することになります。今や大人と一緒に使うものや大人と一緒には、布で目隠しをしたり、工夫を付けたりとしたり、危険が伴うものでもあれば、予め取り除くなどの計画的な環境構成が求められます。無利環境を整理した結果、環境が可能な道具や材料が限られて、一年中同じ環境になつてしまつては、元も人もありません。子供配慮された環境となるよう、見直しをしよう。

ちよこつとメモ



今、小学校以降の教育において「個に応じた指導」が一層重視されています。幼稚園教育要領や保育指針に「一人一人の特性・発達過程に応じたこと」とあるように、幼児教育にとつて「個に応じた指導」は、長い間大切にされてきた教育観です。しかし、実際は集団行動ありきの保育が増加し、さらには、小学校の学習の先取りをすることが重要となつた「誤解」も未だなく、遊べる時間を削り、運動遊び、音楽遊びなど、〇〇遊びと称した教師主導の斉活動を中心に据えている園もあります。このことを全国的な課題の一つとして捉え進められてるのが「幼児保小架け橋プログラム(文科省)」です。遊びを中心とした教育課程を実現し、幼児期にふさわしい教育の在り方を議論していく時です。

トンボをおびき寄せる道具を設置。

トンボが卵を産めるようにとカップに水を入れる2人。そこに綿を入れたら氷水に見えたA児は、水を太陽で温めてお湯づくり。A児は「トンボは(温・冷)どっちが好きかなあ」、C児は綿鉛をつくり「甘いのが好きかも」と、仕掛けづくりに夢中の2人。

甘いのが好きかな?

どっちが好きかなあ

ホームページでは写真を公開しておりません。ご了承ください。

戦いごっこのアイテムを生かしたトンボを捕まえる道具

※1：本通信における「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用。